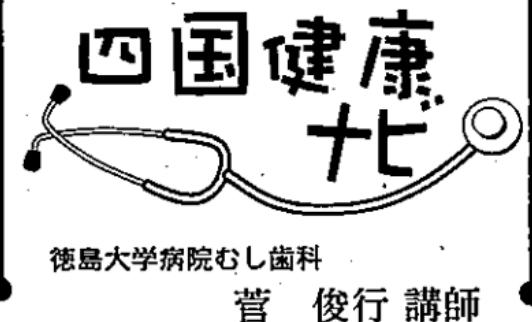


近年、生活習慣病の一つとして捉えられている歯の疾患に酸蝕症があります。かつて、酸蝕症は、酸などを吸うメッキ工場などで働く人が罹患する限局的な歯の疾患でした。しかしながら、現代では、誰もが罹患する可能性を持ちうる疾患となってきたのです。酸蝕症は、口の外から入ってきた「酸」や身体のエナメル質は溶けやすくなるのです。

一般に口中がpH5.5以下の酸性状態となると歯の表面のエナメル質は溶けやすくなるのです。

中からの「酸(胃液)」によって歯が溶ける病気で、細菌が產生した酸により歯が溶ける虫歯とは区別されています。

酸蝕症の増加の原因としては、清涼飲料水・柑橘類などの酸性飲料や酸性食品、並びに健康増進のために服用する酢やビタミン剤などのサプリメントの摂取量の増加による外因的な原因で、拒食症や逆流性食道炎などによる胃酸の分泌といった内因的な原因があげられます。



近年、生活習慣病の一つとして捉えられている歯の疾患に酸蝕症があります。かつて、酸蝕症は、酸などを吸うメッキ工場などで働く人が罹患する限局的な歯の疾患でした。しかしながら、現代では、誰もが罹患する可能性を持ちうる疾患となってきたのです。酸蝕症は、口の外から入ってきた「酸」や身体のエナメル質は溶けやすくなるのです。

酸蝕症 水がしみたら受診のサイン

それがえ、酸蝕症の予防としては、原因となる飲料・食品などを長時間口の中に入れず、採取後は、水やお茶などの中性飲料ですすぎ洗いしておこなうことが好ましいとされています。

歯の溶解量が増えていくと、エナメル質の下に存在する象牙質には目に見えない小さな管が歯の神経へと通じており、そのため、冷たい水などがしみます。象牙質には最初は一過性の痛みを引き起こします。

最初は一過性の痛みであるため、そのまま放置しておく方も多くあります。そうなると歯の神経を抜かないといけなくなるので、冷たい水がしみだしたら、早めの歯科医の受診をお勧めします。

ですが、通常は唾液が酸性状態を中和し、溶けた部分を修復する現象が起こっています。そのため、酸性のものを口にしたからといって、すぐに酸蝕症になるわけではありません。しかししながら、現代では、誰もが罹患する可能性を持ちうる疾患となってきたのです。酸蝕症は、口の中での酸性飲料や酸性食品の過剰摂取により、口の中が酸性状態(pH5.5以下)になつた状態が長く続くと、唾液による歯の修復機能が追い付かず、歯が溶けて酸蝕症を発症してしまいます。